

青森市所蔵作品展関連企画
8ミリフィルムのデジタルアーカイブ・プロジェクト
～家庭に眠る8ミリフィルムを大募集！

青森公立大学国際芸術センター青森



茨城県大子町での8ミリフィルム出張上映会の様子

押し入れに眠っている8ミリフィルム、最後に見たのはいつですか！？
フィルムにもう一度光をあて、かつての思い出を甦らせてみませんか。

【主催】青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC]

【協力】NPO 法人記録と表現とメディアのための組織[remo]

<お問合せ>

青森公立大学 国際芸術センター青森[ACAC]

〒030-0134 青森市合子沢字山崎 152-6

TEL:017-764-5200 FAX:017-764-5201 MAIL: acac-1@acac-aomori.jp

ホームページ: <http://acac-aomori.jp/>

担当学芸員: 服部浩之

<概要>

青森公立大学国際芸術センター青森では、青森市が所蔵する美術作品や民芸品などをテーマに沿って選出し公開する青森市所蔵作品展を毎年開催しています。本年度は、「メディア／アート／社会」というテーマのもと、映像や記録、アーカイブ(収集・保存・公開・活用)そのものに焦点を当てます。

本展の一環として、NPO法人記録と表現とメディアのための組織[remo]の協力を得て、市井の人々によって個人的な視点で撮影された「8ミリフィルム」(昭和30～50年代)を皆さまから募集し、「まちの資源」として活用することをめざしたデジタルアーカイブ活動(収集・保存・公開・活用)を展開します。

8ミリフィルムを中心としたかつての青森の様子をとどめたホームムービーの収集告知にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

<デジタルアーカイブ活動の流れ>

1) 収集(9月～10月)

フィルム収集のためのチラシや回覧板をひろく配布し、フィルム提供を呼びかけます。そして、映写技師となるremoスタッフが映写機とともにご自宅やお近くに用意した会場まで出張し、ご家族やご友人の上映会を行います(出張上映会)。

2) 保存(11月)

上映会で試写されたフィルムの中から、地域の人々にとって馴染み深い映像を選別し、所有者の許可を得た上でデジタル化します。なお、デジタル化された映像は、フィルム返却時に無料でDVDにしてお返しします。

3) 公開(12月～2015年1月)

デジタル化された映像を用いた鑑賞会を開催します(公開鑑賞会)。なお、鑑賞会では、remoスタッフがファシリテーターを務め、参加者の語りや想起を促すことによって、世代間・地域間コミュニケーションを誘発させます。

4) 活用(2月～3月)

所蔵作品展内において、デジタル化した映像を利活用します。

<備考>

*すでにデジタル化された映像も探しています(VHS化も含む)。

*サポートスタッフも随時募集しています。

<協力者の紹介：NPO法人記録と表現とメディアのための組織[remo]>

remo(レモと読みます)は、21世紀における映像メディアの可能性を追求することを目的とした非営利組織です。2002年に大阪で設立されました。芸術活動から日常の生活まで、こどもからお年寄りまで、「映像メディア」と「社会」とのよりよい接点をさぐる活動を多岐にわたって展開しています。

その活動の一つとして、「個人的な記録物」がもつ「社会的・潜在的価値」を評価することを目的とした8ミリフィルムアーカイブ(アハ!というプロジェクト名)があります。本企画は、アハ!の活動を参考にした取り組みです。

詳しくは、下記アドレスをご参照ください。

<http://www.remo.or.jp/ja/>

<フィルム収集とその過程の様子>



茨城県大子町での8ミリフィルムアーカイブプロジェクトの取り組み



8ミリフィルム



『花嫁の門出』(8ミリフィルムをデジタル化し、その1コマをキャプチャー)/昭和37年/大阪市浪速区/
地域住民から提供